

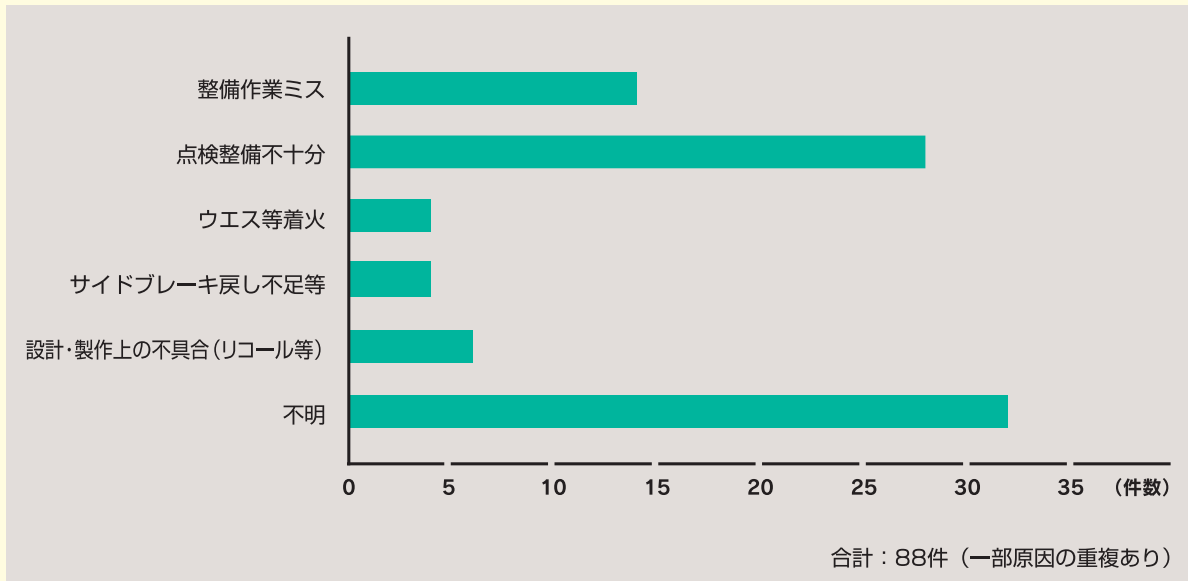
大型バスの火災防止のための点検内容

定期点検

燃料装置の燃料漏れや、電気装置の電気配線の接続部に緩み及び損傷がないかを点検しましょう。

バス車両火災の原因は、整備作業ミス、エンジンルーム内に置いたウエス等への着火やサイドブレーキ戻し不足といったミスがある他、適切な点検整備をしていれば免れたと考えられる火災事故が数多くあります。

事業用バス火災事故件数 原因（推定も含む）



- 「整備作業ミス」は、部品の取付が不十分（緩いものもあれば、締め付けすぎもある）であったもの、取り付ける部品を間違えたもの、取り付ける方法を間違えたものなどが主な原因です。
- 「点検整備不十分」は、燃料配管を固定するクランプの不具合による燃料漏れ、配線の不具合の見落とし、テール・パイプ等の腐食などが多くの原因です。

このような事故が起きています。

事業用バスの車両火災事故

平成18年6月と8月に、山陽道においてバスの車両火災事故が発生。そのいずれも、燃料配管を押えるクランプのゴムが劣化し、直接金属同士が接触、配管に穴があき燃料漏れを起こしたことに起因すると推定されています。定期点検をしっかりと行っていれば防げた内容です。バスの車両火災は、平成15年1月から、平成22年12月末までに事業用で210件発生しており、なかには、車両が全焼に至るケースも見られ、一歩間違えれば大惨事となりかねません。



推進：国土交通省 自動車点検整備推進協議会 後援：内閣府 警察庁 環境省

協力：自動車検査独立行政法人 軽自動車検査協会 独立行政法人自動車事故対策機構

大型車車輪脱落防止連絡会：(社)全日本トラック協会・公益社団法人 日本バス協会・(社)全国自家用自動車協会・一般社団法人 日本自動車タイヤ協会・

(社)日本自動車整備振興会連合会・全国タイヤ商工協同組合連合会・全国石油商業組合連合会・(社)日本自動車車体工業会・一般社団法人 自動車用品小売業協会・

日本自動車輸入組合・(社)日本自動車機械工具協会・(社)日本自動車機械器具工業会・(社)日本自動車販売協会連合会・一般社団法人 日本自動車工業会 (順不同)

